

## 令和2年度 第1学年始業式 校長式辞

皆さん、おはようございます。

学校が再開し、いま呼名のあった208名の新入生の皆さんと、こうして顔を合わせることができて、教職員一同、とても嬉しく思っています。

本校では4月6日から臨時休業に入り、そのため翌日に予定していた入学式を実施できませんでしたが、このことを真摯に受け止め、この場に臨んでいる新入生、そしてその皆さんを支えてくださっている保護者の方には、心から感謝したいと思います。

このたびの新型コロナウイルス感染症は誰もが初めて経験する出来事で、皆さんも先の見通しが立たない不安を抱えながら毎日を過ごしてきたことと思います。一方で、この問題を機に、いろいろと見えてきたこともあるような気がしています。

日本国内に緊急事態宣言が発令され、世界規模で感染の拡大が急速に進む状況のなか、「人と人とは、こんなにも繋がっている」「私たちはグローバル化する社会の中で生きている」ということを感じた人もいないのでしょうか。また、咳エチケット、ステイホームやソーシャルディスタンス、様々な活動の自粛といった言葉を聞くたびに、「人と人が繋がる」ということが、私達人間にとって本来の営みであることを改めて認識しました。こうしたお互いに配慮しあい、互いに互いを守りあう行動が、感染拡大の防止に大きく貢献したことは確かだと思います。と同時に、これからも感染者に対する偏見や差別に繋がるような行為は絶対にせず、医療関係者をはじめ最前線で尽力されている方の存在を決して忘れてはいけません。

さて、新入生の皆さんは、これから始まる高校生活への期待と不安のなか、その第一歩を踏み出したわけですが、本校での生活をスタートするにあたり、私から一つ、メッセージを送ります。それは、これからの時代において、皆さんには芝商生として、また地域社会の一員として、他者と積極的に関わりながら自己を位置付け、律して欲しいということです。

同じ教室には、様々な中学校から友人が集まり共に学びます。当然のことながら、目標や考え方も人それぞれです。そこで、一人一人が常に相手のことを考え、自分自身の言動を振り返り、お互いの気持ちや立場を大切に、豊かな人間関係を築いてください。

また、本校が立地する浜松町・竹芝地区では大規模な再開発プロジェクトが進行し、多くの企業が参入してきます。実践的・体験的にビジネスを学習する上で、これほど恵まれた環境は他にありません。現在は多くの制約があり、校外での活動も難しい状況ですが、皆さんには地域を学びのフィールドとして、新たなビジネスの創造や賑わいのあるコミュニティづくりといった学習を通して、人と人との繋がり大切さを学んで欲しいと思います。

そして、本校で過ごす3年間に様々な人たちと出会うなかで、本校の校歌に謳われている「励みあい」という言葉、この言葉を芝商生である限り常に持ち続け、互いに助け合いながら、自分自身を高めていくことを願っています。

結びに、緊急事態宣言が解除され、学校は再開しましたが、新型コロナウイルス感染症が完全に無くなったわけではありません。感染の防止に向けて、この間に身に付けた「新しい日常」を一人一人が実践し、自分のために、そして人のために行動してください。

引き続き、一緒に頑張っていきましょう。

令和2年6月1日

東京都立芝商業高等学校長 林 修